

おめでとう西区誕生20周年



広島市西区コミュニティ交流協議会だより 2001. 1 NO. 11

広報『すずがみね』の150号を記念して、広報委員の方にホームページ原稿を送信していただきました。その一部を紹介します。ホームページでは、150号の紙面もご覧になれます。広報『すずがみね』は1986年（昭和61年）8月に創刊され、2001年（平成13年）1月に150号になりました。

ふるさとを伝えて15年

広報『すずがみね』

150号発行



刷り上がった150号を自治会ごとに仕分けする広報委員

西区鈴が峰町で発行している住民の広報紙、「すずがみね」が2001年1月号で、ちょうど150号に達しました。

発行部数は2670部。毎月、町の社会福祉協議会で内容を決め、みんなの原稿を広報委員会に送って編集、第2日曜の朝、鈴が峰公民館の輪転機で刷りだします。同じ日の夜の連合町内会で自治会に配布、同時に西区内の公共機関にも配達されています。

住民手作りの新聞なので、特に体裁はこだわりませんが、町の盛り上げと近所同士のふれあい増進が合言葉です。でも最近、パソコンで原稿を書く人も出てきたので、編集はすべてパソコンとメールで行っております。

☆☆150号から☆☆

新世紀も羽ばたこう

鈴が峰地区社会福祉協議会
会長 松本勝信

21世紀をともに元気で迎えられたことをお喜び申し上げます。

20世紀は時代も人も、住む環境も、仕事も変化し、厳しさを増したとさえ思われます。幸い町内は優れた人材ばかり。これからも地域の期待にこたえる活動をされると信じます。

今年も町内から感謝される社会福祉協議会にと願い、ご挨拶いたします。

ひろしま散歩

消えた山すそ 鈴が峰



団地が、ふもとから山腹に向かって伸びていく。平地の少ない広島では、都市の拡大は、海の干拓、埋め立てや山地の開発によって支えられている。

西区と佐伯区の境にそびえる鈴が峰は、山地の開発の典型であろう。なだらかな山すそを持つ鈴が峰は、その周りを住宅地などに造成され、新しい町が生まれた。市街が初めから山腹に続いていたと錯覚させられるほどである。

古来、人間は、新たな活動の場を絶えず生み出してきた。川を治めてきたことも、海を干拓、埋め立ててきたことも山を切り開いてきたことも、すべてそうだった。同時に人間は、それまでの営みを過去の出来事として、次第に自らの記憶の底に埋もれさせてもきた。

佐伯山卯(う)の花持てる愛(かな) しきが手をし取りては花は散るとも

万葉集の詠み人知らずの歌だが、この「佐伯山」を鈴が峰とする説がある。歌の意味は、「佐伯山で卯の花を持っている恋しい人の手を取りさえすれば、その花は散っても構わない」という思いを込めたものといわれる。山すそのどこかに、白い卯の花を手にしてたたずむ美しい女性がいたのだろうか。

だが、今の鈴が峰の姿は、そんな山すそなど知らないと言っているようだ。

(広島市公文書館)

広報紙「広島市民と市政」
昭和61年2月1日号から

ひろしま散歩

消えた山すそ 鈴が峰



団地が、ふもとから山腹に向かって伸びていく。平地の少ない広島では、都市の拡大は、海の干拓、埋め立てや山地の開発によって支えられている。

西区と佐伯区の境にそびえる鈴が峰は、山地の開発の典型であろう。なだらかな山すそを持つ鈴が峰は、その周りを住宅地などに造成され、新しい町が生まれた。市街が初めから山腹に続いていたらと錯覚させられるほどである。

古来、人間は、新たな活動の場を絶えず生み出してきた。川を治めてきたことも、海を干拓、埋め立ててきたことも山を切り開いてきたことも、すべてそうだった。同時に人間は、それまでの営みを過去の出来事として、次第に自らの記憶の底に埋もれさせてもきた。

佐伯山卯(う)の花持てる愛(かな) しきが手をし取りては花は散るとも

万葉集の詠み人知らずの歌だが、この「佐伯山」を鈴が峰とする説がある。歌の意味は、「佐伯山で卯の花を持っている恋しい人の手を取りさえすれば、その花は散っても構わない」という思いを込めたものといわれる。山すそのどこかに、白い卯の花を手にしてたたずむ美しい女性がいたのだろうか。

だが、今の鈴が峰の姿は、そんな山すそなど知らないと言っているようだ。

(広島市公文書館)
広報紙「広島市民と市政」
昭和61年2月1日号から